

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果から（我孫子第二小）

1. 全国学力・学習状況調査の結果について

<国語>

- 「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「選択式」「記述式」に関する問題の正答率は、全国平均を大きく上回っている。内容別・問題形式別のほとんどの分野で上回っている。
- ▲漢字を文中で正しく使うなど「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する問題も概ねできているが、文中にある漢字を書き取る問題の正答率は、全国平均より低い。

<算数>

- 「数と計算」「データの活用」の領域に関する問題の正答率は、全国平均を上回っている。「図形」の領域に関する問題の正答率は、全国平均とほぼ同じである。問題形式別では、「記述式」の問題の正答率は、全国平均を上回っている。「選択式」「短答式」の問題の正答率は全国平均は、ほぼ同じである。
- ▲速さの意味について理解しているかどうかをみるなど「変化と関係」の領域に関する問題の正答率は、全国平均をやや下回っている。

<児童質問調査> ○→全国平均を上回った項目 ▲→全国平均を下回った項目

- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか
- 国語の授業の内容はよく分かりますか
- 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力しました。（国語）
- ▲国語や算数の勉強は好きですか ▲自分には、良いところがある。
- ▲自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
- ▲学校の授業以外の1日あたりの学習時間

2. 成果と課題に対する今後の取組について

<成果>

- ・国語に関しては、各種学力調査の分析を生かした指導、読書活動の充実、「書く」指導の積み重ね（文章を書く活動を増やしたり、一定の条件のもとで考えながら書く機会を設けたりする）などの成果と考えられる。
- ・算数の「数と計算」「データの活用」に関しては、「小数の除法」「計算に関して成り立つ性質を活用した計算の工夫」「円グラフの割合の読み取り方」「必要なデータの分類整理」などに関する効果的な指導をしたことや「数の計算」の領域の指導法を全職員で研究したことが功を奏したと思われる。
- ・児童質問調査の結果から、これまでの学校や家庭での指導、支援の積み重ねにより、「自己有用感」の高まりが少しずつ見られる。

<課題と今後の取組について>

- ・国語に関しては、漢字の学習時に、熟語の意味の確認や比較などの学習を行う。文意に合う漢字を選択したり書いたりする。
- ・算数に関しては、「変化と関係」の領域の学習時間を増やす。二つの数量の関係に着目し、速さなど単

位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解できるようにする。

- ・複数年を見通して、複数の資料を同時に読み取ったり、資料を作成してから文章を作成したりする課題に取り組む。資料等の活用方法がまだ十分に分かっていない児童がいる場合は、繰り返し取り組ませたり、より簡素な資料の活用の仕方から確認したりしていく。
- ・研修内容を見直し、既存の研修の改善や新たな研修を実施し、授業改善につなげる。
- ・引き続き、各種学力調査の分析や改善等を対象学年だけでなく、全学年で行う。出題内容と関連のある学年を中心に、設問ごとに分析等を行い、学校全体で共有する。
- ・児童の学習の様子を中心に、様々な方法で家庭や地域に伝えるようにする。児童への声かけ、頑張りや良さの称賛の機会を増やし、児童の意欲の向上につなげていく。